

「乳がん発見」新鋭機導入！紀和病院～紀北筋 初の朗報



乳がんの早期発見で、女性たちの命を救おうと、和歌山県橋本市岸上にある医療法人南労会=佐藤雅司（さとう・まさし）理事長=の紀和病院は、最新鋭の乳房X線撮影装置マンモグラフィー「トモシンセシス（3次元撮影）」を、紀北筋（岩出～橋本）で初めて導入した。紀和病院・紀和ブレスト（乳腺）センター長の梅村定司（うめむら・ていじ）医師は「これまでとは比較にならないほど、乳がんを早期発見できるようになりました」と話した。女性たちが「安心感」を持てる朗報である。

「トモシンセシス」は造語で、「断層合成」という意味。これまでの乳房X線撮影装置・マンモグラフィーは、乳房を上や斜めから1枚ずつ撮影するだけで、日本女性に多い高濃度乳腺（にゅうせん）全体が白く写り、その中に白く写る「病変」を発見しにくかった。

今回の新鋭機は、上や斜めから角度を変えて、15回も照射・撮影し、コンピュータが乳房内のデータを解析・再構築する。例えば照射・撮影時の圧迫した乳房の厚みが約3センチの場合、平面データ（断層像）は約40枚となる。

これにより医師は、この精密なデータを基に、正常乳腺と「病変」との識別が容易になり、スピーディーに判断できるようになった。また、女性たちの「被ばくの低減」や「撮像時間の短縮」などの長所も兼ね備えている。



同病院の平成29年（2017）1年間の乳がん検診件数は1659件。新鋭機は2月13日から診療使用を開始。4月1日からは検診使用の予定。撮影の際は、放射線科前の廊下わきの「マンモ撮影・待合室」で、側壁のモニターで「マンモ撮影の進め方」を見て、穏やかに心を整え、待つことになる。

同病院放射線科の國眼勇（こくがん・いさむ）技師長や診療放射線技師の藪下紗弥香（やぶした・さやか）さんは「この新鋭機で早期発見できる」と喜び、梅村センター長は「乳がんは早期発見でほとんど治ります。新鋭機・トモシンセシスは、すごい撮影威力を発揮しますので、これまでの辛いMRI（磁気共鳴画像）検査なども不要になることでしょう」と話していた。



写真（上）は紀和病院が導入した最新鋭の乳房X線撮影装置マンモグラフィー「トモシンセシス」と梅村センター長、藪下・診療放射線技師。写真（中）は撮影前にモニターで撮影方法を見る「マンモ撮影・待合室」。写真（下）は新鋭機のデータを基に「病変」発見に努める梅村センター長=紀和病院「紀和ブレスト（乳腺）センター」で。